

日本の伝統音楽・芸能と日本文化の特質 松籐子を中心に

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 吉川周平

《第1部》(文献資料からわかること)

1 はじめに 研究の対象と方法

小泉文夫(1927-1983) 『日本伝統音楽の研究』

「方法論の序説」 民謡研究家町田佳聲(1888-1981)の方法を批判

対象:「音そのもの」に限定(日本伝統音楽には、音楽外の要素が多い)、「日本伝統音楽」

尺度:「核音」 芸術音楽の基盤に民謡があり、その基盤にわらべ歌がある

2 早稲田大学演劇科で学んだこと(1959年入学)

郡司正勝(1913-1998) 歌舞伎研究、「風流旋風」

本田安次(1906-2001) 能から、民俗芸能の美に魅せられる

卒業論文「日本演劇史における風流の展開」、1963年

修士論文「『看聞御記』における風流」、1966年

「松拍考」(上) 『演劇学』8、1967年7月、pp.20-49

「松拍考」(下) 『演劇学』10、1969年5月、pp.23-43

「菊池の松籐子について」、『菊池の松籐子』、1994年3月、菊池教育委員会、pp.46-55

(『民俗芸能』55、1975年1月の再録)

3 「風流」について

「風情ノ義也 日本ノ俗拍子物ヲ呼テ 風流ト曰フ」(『下学集』)

〔「松拍考」(下)p.38、以下 下 p.38と記す〕

「風流」は趣向を凝らしたもの ex. 祇園祭の山・傘

「風流」は「拍子物」もさす。『広辞苑』、「中世の、籐子を伴う群舞、風流」

4 「松籐(子)」は「松拍(子)」・「松奏」とも書く。新春にあたり、その象徴である松を、籐子言葉や音楽、芸能で籐すもの。

5 「松拍考」の対象、「松ばやし」と記されるもの〔上 p.20の目次〕

演者による相違はあるか

行う場所による相違はあるか

6 演者による芸能の相違

職業的芸能者(観世猿楽、声聞師)は猿楽(能など)

素人（大名の一族郎党、町女房など）は風流の拍物  
大名松拍、女松拍（女房ハヤシ）  
女松拍 永享9年（1437）1月、上 p.24

1月14日 『東寺執行日記』……風流の拍物、楽器の記述

1月2日 『看聞御記』……駒舞、唐人種々宝物奉之。桂女風情云々

大名松拍

初見『満濟准后日記』 正長2年（永享元年=1429）1月13日、上 p.26

義満が6歳の時、播州の赤松亭で見たものが佳例となり、義教は赤松左京大夫が三条坊門殿に挙行したのを見た

（「松拍子について」、川嶋将生『中世京都文化の周縁』、1992年6月、思文閣出版、pp.219-222）

松拍の風流「田楽之体学之」『看聞御記』 応永31年1月15日条、上 p.22 上段

永享12年2月13日 義教が禁中で自身と有力大名の松拍をお見せする。

『建内記』同日条、下 p.31下段 「物マネ」……松拍の芸能の性質

義教が関白二条持基に禁中で行うことの可否を相談したときの持基の認識

## 《第2部》（民俗芸能の松囃子からわかる松囃子のかたちと意味）

### 7 松拍と三毬打（左義長）との相違

行う人が同じでも対象とはやし言葉が異なる。

三毬打は「トンドヤ、ハア」などとはやす、上 p.47 下段

『徒然草』第180段「さぎちゅうは」

松拍は「松やにやーに、小松やにやーに」

### 8 菊池の「松囃子」（「蓬莱三方」といわれる作り物の風流を伝承している）

第1段「天下泰平、国土（家）安穩、武運長久、息災延命、弓は袋にいれ、

剣は箱に納め……」という。（狂言の『松囃子』、上 p.31上段、下段）

最後に「御嘉例の松をはやし申そう」とあるから、次の段が本芸とみなされる

第2段 本芸「松やにやーに……」、笹を使って舞う

第3段 能風「春の色は東よりなびきおさまりぬ……」と、扇を開き舞う

（「松ハヤシ」書付の冒頭と同じ）

### 9 菊池の松囃子の構成

狭義の「松囃子」（本芸）のあとに、能・狂言を演じる……広義の「松囃子（御能）」

10 猿楽の構成

「翁」(本芸)のあとに能・狂言を演じる

「翁の能」、本田安次、『翁その他』、1958年7月、明善堂、pp.191-230

翁の対面、 鈴を渡す.....性的表現、豊穰儀礼、農耕文化

11 「松ハヤシ」書付.....「菊池の松囃子について」pp.54-55

将軍の御代をことほぐ。武家文化の祝言。能の武家の式楽化の始まり

12 義教が創造した、幕府の新年儀礼としての、広義の「松拍」

(菊池では「御松囃子御能」ともいう)

「松囃子」、『世子六十以後申楽談儀』、上 p.35 下段

世阿弥の佐渡配流の一因か

13 義満は将軍として、初めて能を見、パトロンとなったが、鑑賞者にすぎない。

義教は、町女房や大名たちに空前の風流の松拍を行わせ、観世による松拍を、武家の盛大な新年儀礼として行わせ、猿楽を農耕文化から、武家の式楽化させる創造的な仕事をした。